

希望

平成23年11月11日(金)
大船渡市立第一中学校
学校新聞「希望」第14号
発行責任者 高橋 莉子

ふれあい交流会★ 大成功!!



知りありがとうございました

11月4日(金)に、一中生と、宮田団地のみなさんとの「地域ふれあい交流会」が行われました。二年生では、加藤・デンプラ・ラン・ミさんのご協力とご指導のもと宮田団地のみなさんと一緒に、プラントの花植え、その後、体育館に移動し、全校で、各学年ごとに合唱を披露しました。

二年生で行った、プラントの花植えでは宮田団地の20名の方が参加してくださいました。一中生約2名、宮田団地の方1名でチームをつくり、パンジーや、チューリップの球根などを植えました。また、一中生は、二手に分かれ、宮田団地の

生は、この日のために毎日、一生懸命に練習してきました。そして本番では、全校が全力を出しきることができました。特に、二年生の郡読を発表しているとき、宮田団地の方が泣いているのを見て、私たちの思いがしっかりと伝わったのではないかと思います。

合唱披露の後には、全員で、私たちの大船渡に対する思いをこめて、「ふるさと」を歌いました。

今回、このような会を開催することができて良かったです。いつも、直接交流することが少ない、宮田団地の

10月22日の文化祭で総合学習の発表が行われました。第一学年は「復興を乗り越えよう」というテーマのテーマで総合学習をしました。さらに学級でテーマを決め、そのテーマを解決するために事前学習や

10月22日の文化祭で総合学習の発表が行われました。第一学年は「復興を乗り越えよう」というテーマのテーマで総合学習をしました。さらに学級でテーマを決め、そのテーマを解決するために事前学習や

みなさんと一緒に活動し、交流を深めることができてとても楽しかったです。ふれあい交流会への参加本当にありがとうございました。

私たちがソフトテニス部は、唯一残されたテニスコートのお知らせを聞いてとても嬉しかったです。遅くまでの練習は宮田団地入居の方々に迷惑ではないかという気持ちがあり複雑でした。

でも残してくれたコートで私たちが出来る事をしなければならぬと思えました。それは応援してくれる人たちのためにです。

がこれからどう生き、ていけばいいのかわからない地域に発信すればいいのかわからず、思っています。

がこれからどう生き、ていけばいいのかわからない地域に発信すればいいのかわからず、思っています。

たです。ふれあい交流会への参加本当にありがとうございました。

皆、一生懸命練習し新人戦の結果は団体・個人とも優勝し県大会出場出来ました。

県大会では、団体三位、個人戦は鈴木・橋本ペアが優勝、金野・佐々木ペアが九位で大会の大会の出場権をとれました。

部活をやれるのは家族をはじめいろいろな方々の協力があるからです。その恩返しとして私たちが出来る事は、必死に練習し続ける事だと思えます。

宮田団地の皆様、コートの外で毎日見えて、ありがとうございます。ありがとうございます。ボールの音などで大変ご迷惑だと思いますが、私たちも精一杯頑張ります。それが皆の力になればと思います。

10月22日の一中祭で総合学習の発表が行われました。第二学年は、復興への道標というテーマのもと様々なところへインタビューに行きました。私たちは震災当日の地域の様子、病院や消防署お店などの状況など、学習前は全然わかりませんでした。しかしインタビューを通して、病院・消防署などで働く人の仕事に対する思い、お店などで働く人の強い心にも感動しました。そして今の復興に対する思いを知ることができました。

私は今回のインタビューで、地域の人々、働く人たちの復興に対する強い思いを改めて知ることができました。私たちが中学生も今まで以上に強い思いをもち復興を目指して活動していきたいと思えます。

復興への道標

復興への道標

復興への道標

一球人魂

復興への道標